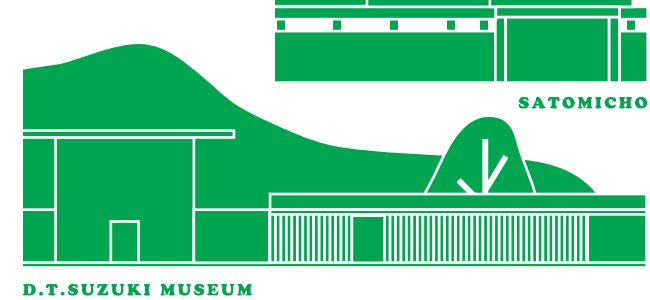
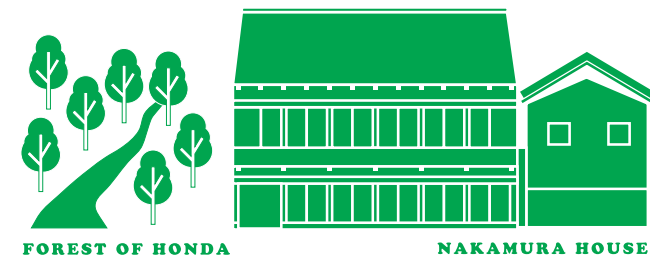


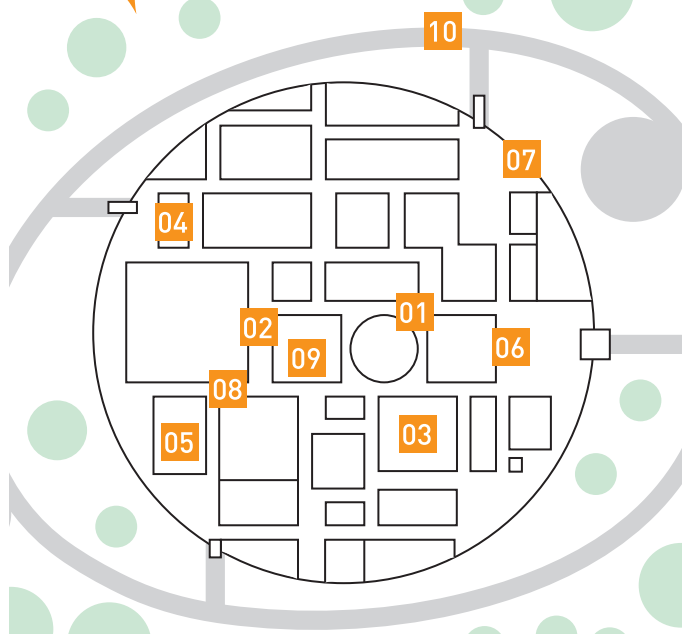
カナザワ ケンチク サンポ vol.1

カキノギバタケ・サトミチヨウ・ミズタメマチ・
シンタテマチ・ホンダマチ・デワマチ
金沢建築散歩 柿木畠・里見町・水溜町・新賢町・本多町・出羽町



PICK UP KENCHIKU 01 金沢21世紀美術館 21ST CENTURY MUSEUM OF CONTEMPORARY ART, KANAZAWA

世界の同時代の美術表現に市民と共に立ち会う美術館
誰もがいつでも立ち寄ることのできる公園のような美術館



01 展示空間
Gallery Space

SANAAによる新しい展示空間の提案。

SANAAは、この美術館で展示空間との間に廊下を挟むことで展示空間を独立させ、その展示空間を自由に巡ることができる展示方法を提案しています。また、可動式間仕切りによって、交流ゾーンや企画展・常設展のエリアを自由に变化させることが可能です。最終的なデザインが決定されるまでSANAAでは膨大なストーリーが行われました。



02 市民ギャラリー
People's Gallery 2004.10.9-2005.3.21

加賀友禅の手法を活かした、華やかな壁。

マイケル・リンは、この作品を製作する際に金沢に滞在して工房を訪ねるなど、加賀友禅の歴史や手法を調査しました。花模様は明るい光の差し込む美術館の休憩コーナーの壁一面を埋め尽くし、壁の前に置かれたSANAAデザインのロッキングチェアの表面にも同柄が施されています。この作品名が示す通り、美術館のオープニング展にあわせて製作され、展覧会終了後撤去される予定でしたが、とても評判が良かったので残されることになりました。

デザイナーズチェアを探してみよう！



館内にはデザイナーによる様々な椅子が点在しています。是非、探してみては？



03 独立した展示室
Gallery

展示室の大きさに違いがあるのはなぜ。

今までの美術館では大部屋を間仕切りで仕切るのが主流でしたが、当館では様々な大きさの展示室を独立したボックスとして配置しています。これはアーティストに自分の作品にあった展示空間を自由に選んでもらうためです。



05 タレルの部屋
Blue Planet Sky

タレルの部屋でのんびりと金沢の空を堪能。

四季を通じて、「空の移ろい」を静寂と光の中で体験できます。季節や時間によって常に変化する空間を、時を忘れて楽しめますよ。



04 エレベーター
Elevator

大人にも子供にも大人気！
雲に乗っているようなエレベーター。

昇降路のないエレベーターで、開放的な吹き抜けを演出しています。油圧のシリンダー自体は細いけれど、その周りの円筒状のフレームで制震性を確保しています。



06 鏡面の床
Floor

天井や床を見ると周りの景色が反射。

美術館内の天井や床は鏡面仕上げになっています。これは、外部の景色を内部にも引き込む工夫で、館内で外の雰囲気を楽しむように配慮されています。



07 外壁のガラス
Wall

びっくりするほど透明な美術館。

美術館の外壁はすべてガラス。なんと122枚の曲面ガラスに囲まれています。「透明、明るい、開放的」が美術館の基本コンセプトとされたことから決められたデザインです。



09 緑の橋
Green Bridge

一年中緑の壁があるらしい。

白の世界の中に突然表れる緑の壁。元植物学者であるアーティストのバトリック・プランによる作品で、一年を通して緑が見れるように考えられています。



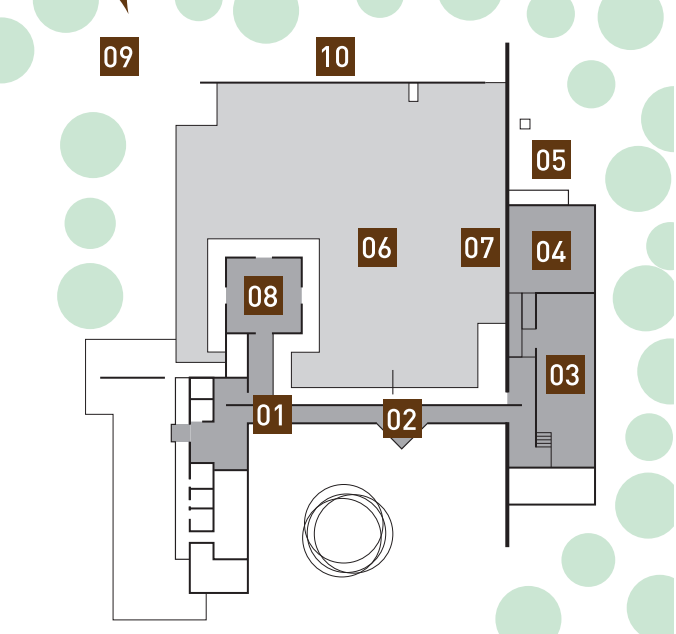
10 跡地の記憶
Memory

記憶をデザインに取り込む。

この美術館は、金沢大学付属小・中学校の跡地に建てられました。当時の樹木を敷地内に再配置したり正門の石垣や記念碑を残すことで、記憶を新しいデザインに取り込んでいます。

PICK UP KENCHIKU 02 鈴木大拙館 THE D.T.SUZUKI MUSEUM

鈴木大拙の人柄にふさわしい
「静か」「自然」「自由」な環境の中で
落ちついて思索できる場所



06 水鏡の庭
Water Mirror Garden

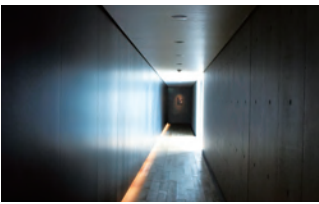
「静か」「自然」「自由」を表現。

周辺景観との調和、季節や天候・時間によって変化する水面は、大拙の人柄にふさわしい「静か」「自然」「自由」を表現。鏡のような静かな水面に時より現れる波紋は○、限界まで単純化された軒や床の角が見せる△、水鏡の庭の輪郭や敷石は□を表しています。

08 思索空間
Contemplative Space

自分と向き合い考える空間。

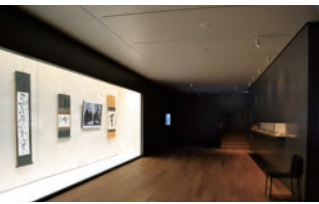
自分と向き合い「考える」空間。今は四畳半を意識した正方形空間に半量の可動の椅子が置かれ、中心の空間は方丈となっています。静かで心地よい緊張感を持つこの空間から水鏡の庭、石の壁、本多の森や空一望できます。



01 内部回廊
Interior Corridor

光に導かれる。

真っ直ぐにのびる回廊は暗く、足下の淡い光が入館者を奥へと導きます。この回廊は参道のような役割を果たしています。



03 展示空間
Exhibition Space

これは一体何なのか。

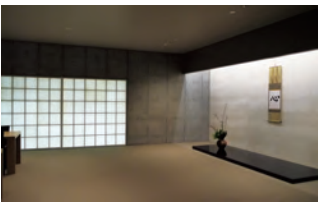
最小限の展示品が解説なく展示されています。知ることより感じる事、理解するより体得する空間。



02 玄関の庭
Vestibule Garden

クスノキとの出会い。

正面の大きな窓から広がる玄関の庭。回廊途中にガラスのアルコーブを設けることで、その先のコンクリート壁を意識させない効果を生み出します。



04 学習空間
Learning Space

障子の間仕切りが空間を左右する。

大拙を学ぶ場所。障子を開放すれば露地の庭、閉鎖すれば二侯和紙を太鼓張りにした障子の輪郭が浮かび、室内に心地よい緊張感を演出します。



05 露地の庭
Roji Garden

△△□の石。

谷口吉生デザインの抽象的なインド産御影石の蹲(つくばい)があります。湧噴する水は水鏡の庭とサイフォンでつながっています。



07 借景
Borrowed Scenery

本多の森を背後に。

瀬戸内海産の錆石が規則的に積み上げられ、壁面の陰影が様々な表情を見せます。石垣の背景は、本多の森を借景としています。



09 隣接する松風閑庭園
Shofukaku Garden

静寂で深遠な庭園空間。

中村記念美術館や松風閑庭園などの歴史文化施設を散策路で結び、周辺の回遊性を高めています。周辺に多くの大木を植生し、奥行きと広がりを感じさせる静寂で深遠な庭園空間です。



10 緑の小径に続く散策路
Walking Path

本多の森へ続く。

途切れた側壁では、静かな水音のなかで水鏡の庭と対峙します。楠の大木を眺めることもできます。さらに歩を進めると本多の森へと続いています。

当初、建物全体を貫く廊下は存在しなかった。
当初、展示空間の配置の仕方が異なり、複雑な動線となっていました。しかし、「迷路的すぎる」という声があり、現在の全体を貫く廊下ことができました。美術館のプロジェクト時の図面は、当時の出版物に掲載されています。

館内の通路幅は、場所によって異なっている。
美術品を運搬する際、ある程度の通路幅が必要になるため、大衆車(カローラ)が自走できるレベルの搬入動線が求められました。

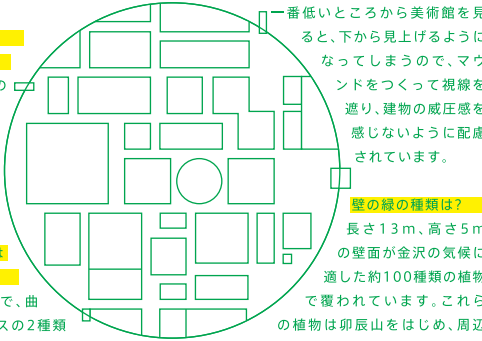
タレルの部屋の
座面に鏡房！？
腰壁や床には、金沢城の石垣と同じ戸室石が使用されています。座面には電熱線が施され、冬の寒さを軽減してくれます。

外周の曲面ガラスには
どんなストーリーが、
施工者側からの提案で、曲面ガラスと平面ガラスの2種類のモックアップが作成されました。これはコストや施工難度の観点から提案されたものですが、検討の結果、当初の設計通り曲面ガラスが採用されました。

展示室では空の青さを感じる。
展示室の天井にはトップライトが設けられています。これは「室内でも空の青さを感じてほしい」という建設当時のキュレーターのこだわり。

床仕上げはメガストアと同じ!!
美術館内の床には、シールハードという仕上げ材が使われています。これは、フォークリフトなどを多く使うメガストアや大型工場の床にも使われているもので、人が歩けば歩くほど艶が出る、耐久性が高くメンテナンスフリーの塗料。建設時には、実際にメガストアに足を運んでその質感を確認したそうです。

敷地の隆起は全て計算されている。
敷地内には4mもの高低差が存在します。一番低いところから美術館を見ると、下から見上げるようになっていくので、マウンドをつくって視線を導き、建物の威圧感を感じないように配慮されています。



壁の緑の種類は？
長さ13m、高さ5mの壁面が金沢の気候に適した約100種類の植物で覆われています。これらの植物は卯辰山をはじめ、周辺の山々で採取されています。一面が緑ではなく、意図的に緑の縞々とした様子、まるで大きな額縁に自然を描いたようなアートです。

あの細い柱、実は太さが違う。
館内の柱は9mピッチ内でランダムに配置されています。実は、その柱の太さはすべて同じではなく、意図的に柱の太さを、エントランスホールなどの大空間では柱が太くなっています。

金沢21世紀美術館×鈴木大拙館 ココダケノハナシ

関係者だけが知る、ここだけのウラ話を一挙大公開。
これであなとも21世紀美術館ツウ、大拙館ツウ、ですよ。

水鏡の波紋は計算されている。
水鏡の庭の水面に発生する波紋の間隔は約3分。これは波紋が起こり、消えるまでの時間が計算されています。当初、複数の波紋が計算されましたが、何度も検討を重ねた結果、4.200mmとなりました。

石垣が建物のバランスをとっている？
大きな石垣を配置することで、建物全体がコンパクトに見えるよう表現しています。石垣の高さは背景となる本多の森を最も美しく見せるために、何度も検討を重ねた結果、4.200mmとなりました。

水鏡の裏のシステム。
水深140mmの水鏡は、周りの景色を美しく映り込ませるよう底石に黒い石が採用されました。水鏡により思索空間は、水の中に浮いている様に映ります。水鏡には900mm×900mmの花崗岩パネルが敷設され、それらは四本の支柱で支持されています。石と石の間隙から水が供給・循環され、水は銅イオンを用いた濾過循環システムによって浄化されています。

壁仕上げの違い。
外壁は漆喰珪セメント系薄塗り仕上げの白に対し、内壁は4.5mmのスチールプレートで仕上げられ内と外を対峙させています。

クスノキのために設けられた玄関の庭。
内部回廊の三角アルコーブは、既存のクスノキを見せるよう最適な位置に設定されています。玄関の庭の敷石は、無機質な下石とすることでクスノキを強調させる効果があります。

